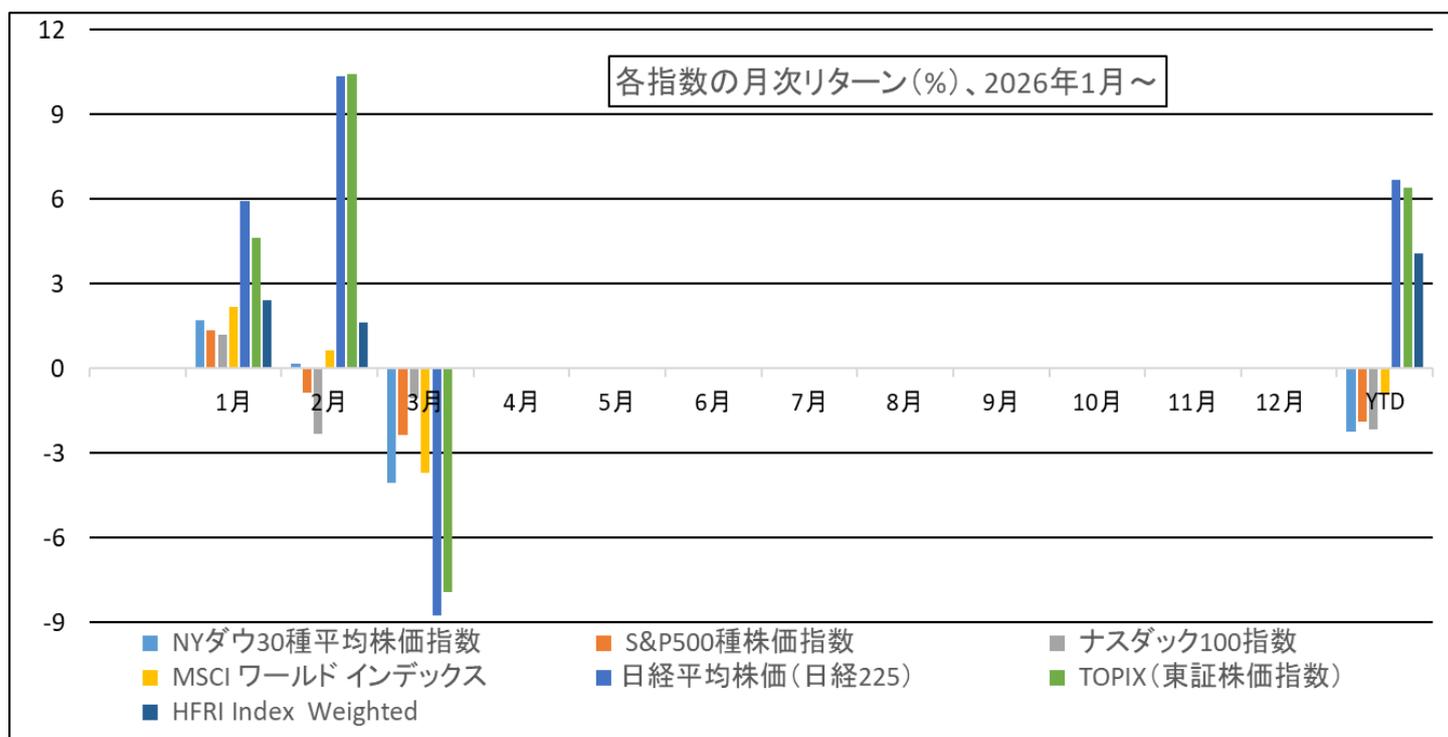


この月報は2026年2月のものですが、以下の表とグラフ及び総論は、この原稿執筆時の2026年3月10日時点でのものになります。

	2026	Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun	Jul	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec	YTD
NYダウ30種平均株価指数		1.7	0.2	-4.1										-2.2
S&P500種株価指数		1.4	-0.9	-2.4										-1.9
ナスダック100指数		1.2	-2.3	-1.0										-2.2
MSCI ワールド インデックス		2.2	0.6	-3.7										-0.9
日経平均株価(日経225)		5.9	10.4	-8.8										6.7
TOPIX(東証株価指数)		4.6	10.4	-7.9										6.4
HFRI Fund of Funds Composite Index		1.82	1.12											2.95
HFRI Fund Weighted Composite Index		2.41	1.61											4.06



注：

以下のコメントは、運用会社アンタークティカ社より共有されたレポートを基に、エアーズシー証券が作成したものです。信頼できる情報に基づき作成をしておりますが、含まれる情報の正確性や完全性、また使用された市場情報源の正確性や信頼性を保証するものではありませんし、将来の実績を保証または示唆するものでもありません。エアーズシー証券は、当資料の分析、又はこれに関連した分析の使用により生じた如何なる損失にも責任を負いません。エアーズシー証券の許諾なしに、当資料の一部又は全部を引用または複製することを禁じます。

2026年2月の世界株式市場の動き

1. 世界全体の動き

- MSCI World 指数は +0.6% と小幅上昇。
- ただし、表面的な上昇とは裏腹に、市場内部では大きな資金移動や地域差が拡大していた。

主な特徴

- 激しいセクター・スタイルのローテーション
- 景気敏感株（シクリカル）のアウトパフォーマンス
- 地域ごとのパフォーマンス格差

これらの流れは1月から続き、2月にさらに強まった。

2. 米国市場

- S&P500： -0.9%
- 2025年3月以来、初めての明確な月次下落

主な要因

- テクノロジー株の下落が加速
 - テックは前年の最大の勝ち組だったが、年初来では不調
-

3. 欧州市場

米国とは対照的に好調

- 欧州株： +3%
 - 英国株： +7%
-

4. 新興国・アジア市場（最も強い）

特に以下の国が大きく上昇

- 日本株： +10%
- 韓国株： +22%

上昇の背景

- AI インフラ関連
- 防衛関連企業
- ハイテク製造業

これらの分野へのエクスポージャーが大きかった。

5. ヘッジファンドの動き

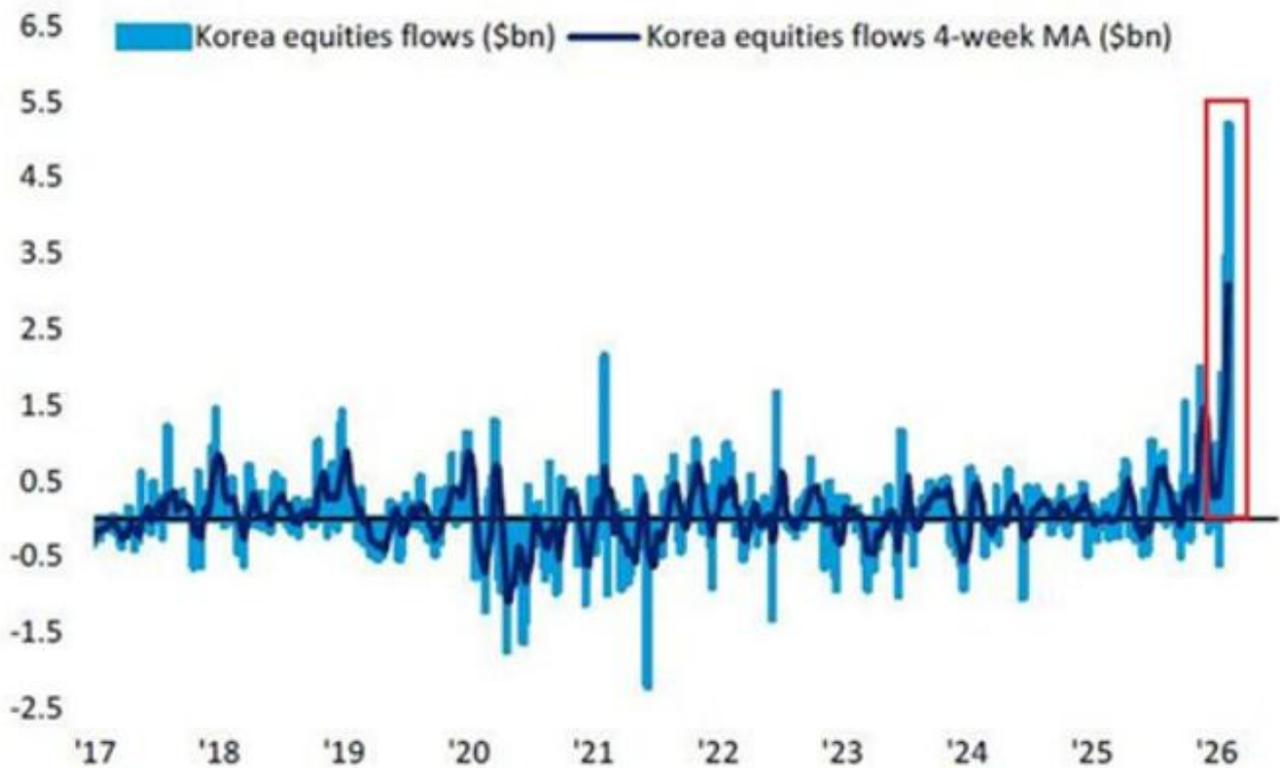
- ヘッジファンドはアジアのこれらの分野に積極的に投資
- 特にマクロ系ヘッジファンドが大きな利益を獲得
- 2026年1月は、この戦略にとって4年で最高の月

図1：韓国株への週間資金流入（2017年～2026年2月）

→ 韓国株に大きな資金流入が起きていることを示すグラフです

Chart 15: Biggest weekly inflow ever to South Korea equities

Flows to Korea equities funds, weekly vs 4wk-ma (\$bn)



出所：アンタークティカ

2026年2月の米国テック株の動き (AI 関連)

1. 1月の状況

1月の米国市場では、同じテックセクター内でも大きな差があった。

- 半導体・ハードウェア → 好調
- ソフトウェア → 弱い

つまり、AI インフラ関連が強く、ソフトウェアが弱い構図だった。

2. 2月前半

2月初めは、AI 関連株でも逃げ場がない状況だった。

- テック株がセクター全体で下落
 - AI 関連銘柄も一時的に売られた
-

3. 2月途中の動き

その後、AI 関連銘柄は回復した一方で、

- ソフトウェア株の弱さがさらに拡大

という展開になった。

4. 市場の評価の変化

市場は一時的に次のような見方を強めた。

- 短期の業績やファンダメンタルズより
- 長期の AI 成長機会

を重視。

さらに、

- 多くのソフトウェア企業が生む巨額のフリーキャッシュフローよりも
- AI が既存ソフトウェアの競争優位 (moat) を壊す可能性

を織り込む動きがあった。

5. 月末～3月初め

しかし、月末に再び流れが変化。

- ソフトウェア株が反発
- この上昇は3月6日まで継続

指標例

- IGV (ソフトウェア ETF)
→ 6日連続上昇

図 2 : GS TMT Software vs Semis Pair (2026 年年初来~3 月 6 日)

意味

- ソフトウェア株と半導体株の相対パフォーマンス比較

ポイント

- 年初は半導体が圧倒的に強い
- ソフトウェアは弱かったが
- 3月に入り反発



出所：アンタークティカ

市場動向まとめ（2026年2月～3月初め）

1. 米国株：セクター別の動き

S&P500は、最大セクターのテックと金融が足を引っ張り弱含みとなった。

一方で、他のセクターは大きく上昇。

上昇した主なセクター

- エネルギー：+12%
- 公益：+10%
- 生活必需品：+9%
- 資本財（インダストリアル）：+8%
- 不動産：+7%
- 素材：+7%

つまり 景気敏感株（シクリカル）とディフェンシブ株が同時に上昇

2. 仮想通貨市場

株式以外では、暗号資産（特にビットコイン）の動きが大きかった。

ビットコイン

- 月初に 65,000 ドルを下回る
- 2025年10月の高値から約50%下落

相関関係の変化

① 金との関係

- 以前：似た動き
- 最近：逆相関に変化

つまり インフレ・通貨価値低下トレードとは切り離されつつある

② ソフトウェア株との関係

- 相関が強い

理由

- AIの影響
- テクノロジー関連の市場テーマ

→ ビットコインは 金融市場の一部としての性格が変化し続けている

3. 3月初め：世界的なリスクオフ

3月第1週、世界市場で**リスク回避の動き（Risk Off）**が発生。

主な原因

- 中東情勢の緊張
 - エネルギー価格上昇
 - 利下げ期待の後退
-

市場の変化

世界株

- MSCI World : -3.3% (3月6日時点)

為替

ドルが上昇、特に新興国通貨が弱い

主な下落通貨

- 南アフリカランド (ZAR)
 - 韓国ウォン (KRW)
-

債券市場

米国債利回りは上昇

- 米10年国債 : 4%超

欧州・英国はさらに大きく上昇。

ただし 米国債市場は比較的落ち着いている

4. 市場のボラティリティ

3月初めは

- 価格変動が激しい
- 日中の急反転が多い

非常に不安定な相場。

5. 韓国市場の大きな動き

特に注目されたのが韓国株式市場 (KOSPI)。

動き

- 3月3日 : -12%
- 3月4日 : さらに-12%
- 3月5日 : +10%反発

記録的な乱高下

背景

- 半導体（メモリ）中心の指数
- 年初来 20%以上の急騰後の調整

また

韓国は通常原油価格の影響は小さいが、今回は急騰後の調整が主因。

6. 欧州市場

欧州株も一部上昇を失う。

理由

- エネルギー価格上昇
- 通貨安
- インフレ再加速の懸念
- 成長鈍化

この状況は 2022 年ロシア・ウクライナ危機の時と似ている

7. ヘッジファンドへの影響

2月28日以降の市場変動の影響は、まだ完全には数字に反映されていない。

各戦略の状況

マクロヘッジファンド

やや逆風

理由

- デフレーション（インフレ低下）前提のポジション

ただし ニュースに合わせて取引できるため 利益維持の可能性

コモディティファンド

比較的好調

理由

戦争による供給懸念で

上昇した商品

- 天然ガス
- アルミニウム

ただし 原油ショートポジションが利益を相殺する可能性。

CTA (トレンドフォロワー)

苦戦

理由

- 株式ロングポジション
-

ロングショート株式

難しい環境

理由

- 市場全体が一斉に売られる動き

ただし

- ショートポジションは利益に寄与
-

まとめ

- 米国はテック・金融が弱く、他セクターは強い
- ビットコインは5万ドル台まで下落し金との相関が崩れる
- 3月初めに中東リスクで世界市場がリスクオフ
- 韓国株が歴史的な乱高下
- ヘッジファンドではコモディティが強く CTA が苦戦

情報ソース、及び注意事項：

アンタークティカ社、HFR ホームページ、ブルームバーグ、日経新聞、トムソン・ロイター、ウォール・ストリート・ジャーナル、リフィニティブ、QUICK などのソーシャルメディア、ウェブサイトの信頼できる情報に基づき、本資料を作成しておりますが、含まれる情報の正確性や完全性、また使用された市場情報源の正確性や信頼性を保障するものではありません。また、本株式の過去の運用実績に関する分析の提供は、将来の運用成績を示し保障するものではありません。エアーズシー証券株式会社は、当資料の分析、又はこれに関連した分析の使用により生じたいかなる損失にも責任を負いません。エアーズシー証券株式会社の許諾なしに、当資料の一部又は全部を引用または複製することを禁じます。